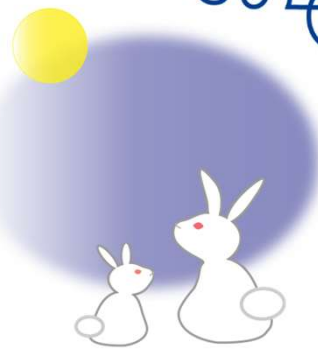


2026/10 神無月 VOL.8

会員だより



～老いも楽し！～

“楽しみ人それぞれ 静と動”

編集・発行

明石市シルバー人材センター

総務・広報委員会



心豊かに 90歳 中山克治さん

玄関扉を開けると開口一番。

「13日にエアコンが故障して修理待ちなんです。すみません。」

「えっ！！大丈夫ですか？」

ところが、上がらせていただいてお話を聞く間に扇風機の風も心地よく、エアコン漬けになっていなかったずっと昔の夏を思い出しました。

1936年生まれ 90歳。

戦争、疎開、60年安保・・・様々な土地での仕事や人との出会いと別れを越えて今を迎えておられます。「私、歳のとり方がどうもわからないのです。目や覚えは劣ってきているとは思いますが、年寄りだとは思わない。」語られる言葉の一つ一つに惹き寄せられる時間でした。

シルバー人材センターとの出会いは、西宮在住の68歳のとき、仕事もポスティングでした。当時西宮では新人シルバー会員の登竜門がポスティングだったとのこと。その後、明石に移って来られて今もポスティングを続けておられます。「健康のため」というより続けていたら足も腰も強くなった」という言葉は説得力をもって心にすんと落ちました。愛車（自転車）を廃車しても歩いて続けているポスティングですが、今年から減ってしまったことを惜しまれていました。

“〇〇のため”と大上段に振りかざすことなく、心のおもむくまま続けるという中山さんの自分軸。くらしの中でもぶれることなく、心豊かな生活につながっているように感じます。空が半分以上を占めるという中山さんの絵画の数々、静かに聴く大好きなベートーベン、原文で読む英国ミステリー、そして家事。こんな時間を今与えてもらっていることを、亡き妻に感謝していると笑顔で語られました。その中山さんの後ろで、15年前に亡くなられた奥様の肖像画が微笑んでいました。

90歳にしてまだまだ心豊かな日々を送っておられる大先輩に出会えた夏でした。



明石浦から
作 中山克治



一般社団法人

明石市シルバー人材センター



精力的に活動 85歳 北村清忠さん

今年度の総会において、会員20年表彰を受けられました。

これまでに図書館の清掃管理責任者を13年、市民ホールでのエアコン管理、音響調節等のお仕事を4年されてきました。

現在は、歯科医院で外回り清掃を週3回、また月1回、衣川コミセンで開催される「みんなの給食（一人でお住まいの高齢者をお招きしての食事会）」で配膳のお手伝いや誤嚥防止のための嚥下体操の指導をされたりしています。次回のお食事会では“幸せとは何

ぞや！”とのタイトルでお話をされるとのことです。

過去には、小中学校のPTA会長をそれぞれ3年、高校では副会長を務められた経験があり、お話することは苦にならないとのこと。

北村さんは熊本県天草市ご出身です。大工から身を起し、40代で建設業を営み多くの一戸建て住宅を建てられました。しかし不運にも建築資材を車で運搬中事故に遭い、大怪我をされ建設業を断念。お子様が住まわれている明石に引っ越して来られました。明石では建設会社にサラリーマンとして就職しましたが、施工側でなく営業を担当されました。

“誠心誠意”をモットーにお仕事に励まれました。営業というのは家売るのではなく自分自身を売ること、結果として家が売れるのであることを、身をもって体験されたとのこと。営業で成果をあげ、和歌山、三重で支店長の要職に就かれました。

“誠心誠意”で事に当たれば、家も売れ、人様との良い出会いに恵まれ、大いに自分を成長させて頂いたと振り返ります。

おかげで、現在の医院での清掃作業に加え、人生の先輩として医院から尊敬され、大切にされています。

また、北村さんは会員として、地域班の班長や地区長も務められており、年1回のシルバークフェスティバルでは、“景品当ての射的ゲーム”を催しとして自ら企画、射的用の鉄砲をご自身で製作されるなど、他の関係者とも協力しながら精力的に活動されています。

これまでに幾多の事故や病気を乗り越えて来られましたが、どれも順調に回復し、今も無理のない範囲で元気に活動されています。

“誠心誠意”を胸に、人との出会いと笑顔を活力へと変えていく北村さんのしなやかで温かな生き方は周囲を元気づける大きな光となっています。

85歳を迎えた今も感謝の気持ちを忘れず、地域のために精力的に活躍しながら、豊かな人生を自らの手で愉しまれています。

編集後記

常に自然体で絵画、読書、音楽と共に、心豊かな日常を愉しむ90歳の会員様と、役員や行事へ精力的に汗を流す85歳の会員様、お二人の姿は「人生百年時代」の楽しみ方が一つではないことを教えてください。静と動、歩み方は違っても無限の可能性を秘めた輝きは同じ。自分らしい一歩を踏み出す元気を頂いた取材となりました。



一般社団法人

明石市シルバー人材センター